opusdei.org

## 24. ファリサイ派、サドカイ派、エッセネ派、熱心党とは誰ですか?

西暦1世紀のパレスチナにおいて、ユダヤ住民の間で、イスラエルの宗教のよりどころとその宗教生活の仕方に対する理解の多様性から種々のグループが生まれました。

2016/09/28

西暦1世紀のパレスチナにおいて、 ユダヤ住民の間で、イスラエルの宗 教のよりどころとその宗教生活の仕 方に対する理解の多様性から種々の グループが生まれました。

イエスの時代多くの住民から最も高 く評価されていたのはファリサイ派 でした。その名前はヘブライ語でパ ルーシームで「分離者」を意味しま す。彼らの大きな関心は神殿の内外 での清浄習慣に関する律法をいかに 守るかという問題に向けられまし た。祭司の清浄習慣は信仰のために 確立されたもので、ファリサイ派の 人々の日常生活のあらゆる行動の中 での生活の理想を示すために伝えら れ、彼らの生活は習慣化され神聖な ものとなっていました。文書化され た律法(トーラー・五書)のほか に、一連の伝承や律法の規定を実践 するための方法を要約したものがあ ります。これらの重要性が徐々に高 まり、これらもまた神からの口頭の トーラーと受け入れられるようにな りました。彼らの信仰によると、こ

れらの口頭のトーラーも文書のトー ラーと共にシナイで神よりモーゼに 伝えられ、従って両方は結び付いて 同等の効力を持ちました。

ファリサイ派の一部の人々にとっ て、政治的な大きさはその重要さを 位置づけする時には決定的な役割を 果たし、国家の独立に向けての目的 と結び付いており、従っていかなる 外部的な力も住民の中における神の 支配力に影響を与えてはならないも のです。この様な一派は熱心党の名 前で知られており、これは多分自分 たち自らを名付けたもので、神と律 法の順守に対する熱意を述べていま す。彼らは神より与えられた救済を 考えていましたが、この救済をもた らすためには神は人間の協力をあて にしていることを確信していまし た。そのような協力は最初に純粋に 宗教的な面で、そして律法の厳密な 順守による熱意によって動きまし た。後の西暦50年代以降は、軍事 面でも示す必要があると考えるようになりました。軍事面では勝利するためには必要な暴力の使用を拒否することはできないが、戦闘中に命を失う恐怖はありませんでした。それは神の名における聖者になるための殉教でした。

サドカイ派は、上流社会の人々で、 祭司、教育のある、金持ちそして貴 族の家族に属する人々でした。イス ラエルがローマ帝国の下になってか ら、彼らの内には、大祭司が選ばれ ました。大祭司は当時ローマ帝国権 力に対してユダヤの代表者でした。 彼らはトーラーをファリサイ派のよ うな多くの詭弁的な問題に陥ること なく非常にまじめに解釈し、従って ファリサイ派が口頭のトーラーと考 えるものを軽視しました。ファリサ イ派との違いは、サドカイ派は死後 の世界を信じず、終末論の死後の世 界に対する信仰もありませんでし た。サドカイ派は人気がなくファリ

サイ派が享受した大衆の支持がありませんでしたが、宗教と政治の力があり、従って非常に影響力がありました。

近年最も研究されているグループは エッセネ派です。フラウィフス・ヨ セフスを通して彼らが如何に生活し その信仰はどのようなものであった かについて多くの情報があります。 また、彼らの一部の人々が定住した と思われるクムランで発見された、 特にパピルスや羊皮紙に書かれた文 書による情報もあります。エッセネ 派の特筆すべき特徴は、ハスモン朝 時代から堕落した祭司により行われ ていた、エルサレムの神殿での礼拝 の否定にありました。結果として、 エッセネ派は住民の神聖さを維持し 回復する考えの下に共同の礼拝の実 践をより絞った範囲、すなわち独自 の共同体に分離する方法を選択しま した。砂漠に設けられた隠遁の場所 の多くは他の人たちとの接触による

伝染を避けるのが目的です。経済的な関係を保ったり献金を受けれるのは、清貧をの理想をののは、清貧をのでするのをではなく清浄習慣を守るのためではならの伝染を避けるの方法です。神殿したの方法ですが異したエルサのないとの決別が経過的にエルサのはの共同体は経過的にエルサないと考えいるではいるではではいいとでないようででない。 神殿に替わるのにまれるでないようでないはいる。 神殿に対いてはでないと考いれる習慣が引きつづき行われてはのいた。

参考書: Étienne NODET, Essai sur les origines du Judaïsme: de Josué aux Pharisiens (Paris 1992); Anthony J. SALDARINI, Pharisees, scribes and Sadducees in Palestinian society: a sociological approach (Cambridge 2001);

Francisco VARO, Rabí Jesús de Nazaret Madrid, 2005) 91-97.

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/iesu-shitsumon-24/ (2025/11/28)